

6日 リール ~ トルナー ~ リール 6時起床、7時朝食、7時25分出発、

8時42分発の列車を予定していたが、7時45分に乗れたので「今日は lucky」と思いきや、出発10分位で先行列車が踏切で車と衝突し、ほとんどの通勤客は下車しあゝいた。8時10分に運転再開したが、8時20分に途中駅 ASCQ で打ち切り、列車はリールに戻った。我々10名はバス移動を希望し待つこと1時間、9時20分バス出発、10時20分 TOURNAI 到着。昨日に続き列車ダイヤが乱れ2時間損した。これも貴重な経験か！



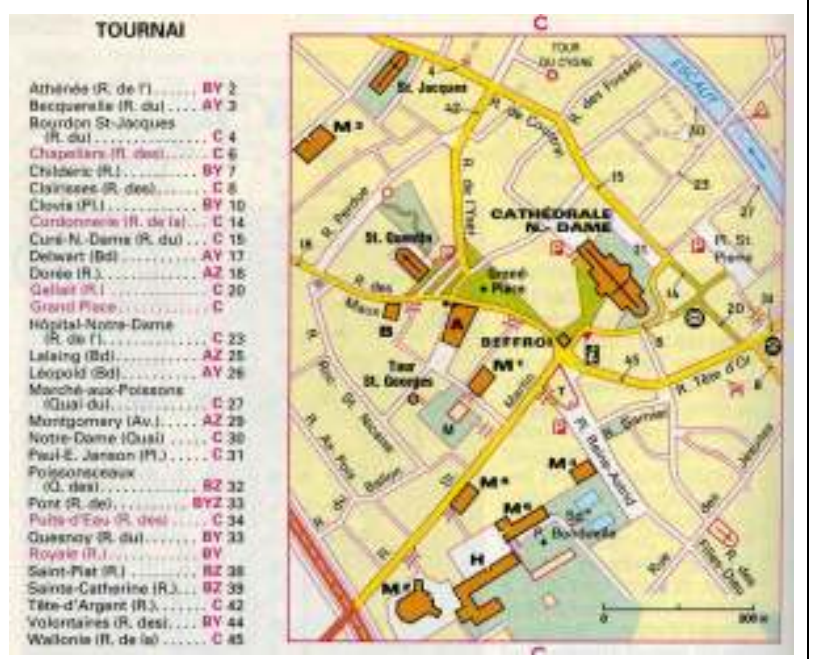
トルナーはスヘルト川に沿ったベルギーで最古の町。トルネの岩石は 2~3 億年前の石炭紀のもで、**Tournai marble** と呼ばれているが正しくはなく、黒い石灰石である。教会の洗礼盤等に重宝された。

トルナーはローマ時代には既に存在しており、432年にはフランク族の一派であるサリ族の領土であり、キルデリクス王 **Childeric** 及びクロヴィス王のもと、メロヴィング朝(428-752)フランク王国(428-511)の首都であった。

486年にはクロヴィスは「ローマ人の王」シアグリウスと交戦しソワソンの戦いで勝利し、シアグリウスは西ゴート王アラリック 2 世のもとに逃走。クロヴィスはセーヌ川、さらにロワール川まで勢力を拡大し、権力の拠点パリに移した。クロヴィスの死後は王国が分裂するが、トルナーは常に王国の西側に所属していた。

カペー朝が始まった **987年**にはフランドル伯のもとでフランスの一部になり、フィリップ・オーギュスト時代の **1187年**には地方の侯爵などに所属せず、独立してフランス王直属になった。

15 世紀の間は織物産業が栄え、ロンドン・ハンザ同盟都市の一つで、タペストリーの重要な供給地になった。**1513年**、**英王ヘンリー8世**に征服され、トルナーは英国に占領されたベルギーで唯一の都市となった。1519年にフランス統治に戻るまで英国議会に議員を出した。見所は；①ノートルダム大聖堂と12世紀の **reliquary** 聖遺物箱 ②ベルギー最古の鐘楼 ③13世紀のスヘルト橋 (**Pont-des-Trous**) ④広場 (**Grand'Place**) ⑤城門 ⑥倉庫、博物館





踏切事故でリール郊外の ASCQ 駅で運転打ち切りポケット手は車掌、寒い駅舎で 10 人がバスを待つ。下はトルネー駅（東京駅？）



1513 年にイングランド王ヘンリー八世がトルネーを占領し、城壁の一部を壊して巨大な監視塔を建設した。





昼食：レストラン LaMarmite(The Cooking-Pot),Grand Pl. 白アスパラの卵料理、フィレステーキ&アーチーチョーク
食前酒はトルネー産白ワインでキール、1/2 ボトルの赤 Chateau BARADA,Buzet AOC、2004、ボルドー東南東 80km





鐘楼に登って 360 度見渡した。他に誰もいない狭いらせん階段を上ると、途中にカリオンの演奏室や牢獄として使われた部屋があった。眺望は抜群！ 展望回廊を一巡、聖堂正面からの眺めは抜群というより、気持ちが悪いほどに迫ってくる。現在のベルギーと北フランスの古い都市の特徴は、①元々ガリア人が住んでいた（食糧、飲み水が確保）、②ローマ人が定着し先人のガリア人と共生、③ローマ軍が引き揚げた後も混血したガロ・ローマ文化が続いた、④旧ローマ街道ルートで地中海と豊かなフランドル地方の交易が盛んになり、チャンパーニュの定期市など商業が盛んになり、川沿いの都市が港町や商業都市として栄えた。下はトイレ

